

道路巡回要領（道路維持修繕業務委託）

第1条 目的

道路巡回（以下「巡回」という）は、委託区域の道路（道路の附属物を含む以下「道路」という）の状況を的確に把握し、道路の異常に対して速やかに適切な措置を行い、もって、道路の保全及び交通の確保並びに、事故の防止を図ることを目的とする。

第2条 適用の範囲

巡回は別に定めるもののほか、この要領により実施するものとする。

第3条 巡回の種類

巡回は、次の各号に定める区分により実施するものとする。

（1）夜間巡回

夜間巡回は、必要に応じて交通の安全を確保するために実施する巡回であり、主として、次に掲げるものを主目的とした点検をするものとする。

（ア）道路照明設備及び道路標識の反射、視認性の状況

（イ）区画線及び視線誘導標の反射、視認性の状況

（ウ）道路に関する工事等の夜間照明及び保安設備の状況

（2）定期巡回

定期巡回は、協議により実施するものとし、道路構造物の保全を図るために実施する巡回であり、次に掲げる主要な構造物等の細部について点検を行うものである。

（ア）橋梁、トンネル、擁壁、護岸等の施設の状況

（イ）安全施設、保安施設の状況及び横断管渠、側溝等排水施設の状況

（ウ）その他道路構造物の状況

（3）異常時巡回

異常時巡回は、台風、集中豪雨、豪雪、地震その他の異常な天然現象発生時及び交通事故の発生時において実施する巡回であり、主として危険箇所を重点的に視察し、危険性の有無及び災害の発生状況等を把握し、情報連絡を行い、適切な防災対策又は応急措置を講ずるため行うものとする。

第4条 巡回の頻度

巡回の頻度は、次表を標準として実施するものである。

路線名	区間	巡回頻度		
		夜間巡回	定期巡回	異常時巡回
主要地方道岩泉平井賀普代線	田野畑村内	協議による	協議による	標準巡回時間： 3時間/回
一般県道田野畑岩泉線				

第5条 巡回実施方法

巡回の実施方法は、次の各号に定めるところにより行うものとする。

(1) 夜間巡回

(ア) 実施日毎の点検目標を定めて、計画的、効率的に行うものとする。

(イ) 巡回に際しては、次の資器材を必要に応じて携行するものとする。

(a) 保安器具（セフティーコーン、バリケード、保安ロープ、保安灯、信号旗、標識等）

(b) 照明器具

(c) 応急処理材料（常温混合材、凍結防止剤等）

(d) 工具（ツルハシ、スコップ、ハンマー、ワイヤー等）

(e) その他（巻尺、カメラ、ポール、管理図面等）

(ウ) 巡回員は、巡回終了後その結果を道路巡回日誌に記載しなければならない。

なお、必要な場合には巡回日誌に写真を添付しておくものとする。

(2) 定期巡回

(ア) 点検対象別の種別に応じて点検計画をたて、着眼点を定めておくものとする。

(イ) 点検結果については、道路巡回日誌に記載しなければならない。

(ウ) 点検に際し、異常が認められた場合には、処置意見を付して監督職員の指示を受けること。

(3) 異常時巡回

巡回中は、常時監督職員との連絡を確保するとともに、状況に応じ交通規制等の措置を必要とする場合は、現場の状況を監督職員に報告し、指示を受けるものとする。

第6条 応急措置

(1) 応急措置

巡回員は、巡回中に道路の異常を発見し、放置しておけば交通に支障がある場合は、直ちに補修または、障害物の除去等を行ってのないうに措置するものとする。

ただし、巡回員が措置できない場合は、必要に応じてバリケード、ロープ、セフティーコーン、赤色灯、標識等を用いて交通に危険のないように措置しておくものとする。

(2) 巡回員は、全ての道路に関する工事（道路管理者以外の者の行う工事を含む）及び道路管理者以外の者が管理する物件が原因となって交通に危険を及ぼしている状況を発見した場合は、直ちに当該工事の施工者又は当該物件の管理者にその状況を通報するものとする。

(3) 前2項の措置のため、通行止め、一方通行その他交通に著しい影響を及ぼすような場合には、直ちに監督職員に報告し、受注者は監督職員から指示を受けるものとする。

第7条 報告

受注者は、道路巡回において異常が認められた場合には、第6条の第1項による措置をするとともに速やかに監督職員に報告しなければならない。